

2013 年度 第 5 回 鋼構造運営委員会 議事録

- 1 . 日時** 平成 26 年 3 月 31 日(月) 14 時 00 分 ~ 17 時 30 分
- 2 . 場所** 建築会館
- 3 . 出席者** 多田元英, 井戸田秀樹, 一戸康生, 岡本哲美, 河野昭彦, 木村祥裕,
(敬称略) 向野聡彦, 河野 守, 吹田啓一郎, 田川泰久, 竹内 徹, 玉井宏章,
成原弘之, 西山 功, 藤澤一善, 藤田正則, 増田浩志, 緑川光正,
見波進(代理), 宇佐美徹(記録)
欠席:越智健之, 笠井和彦, 澤本佳和, 寺田岳彦, 中込忠男, 中島正愛,
山田丈富
- 4 . 配付資料**
- 05-01 2013 年度第 5 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
 - 05-02 2013 年度第 4 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
 - 05-03 2013 年度 第 4 回構造本委員会議案(多田主査)
 - 05-04 小委員会委員追加申請(井戸田委員)
 - 05-05 鋼構造接合小委員会 2013 年度第 4 回議事録(案)(増田委員)
 - 05-06 2013 年度第 4 回鋼構造制振小委員会議事録(案)(緑川委員)
 - 05-07 鋼構造耐火設計小委員会第 18 回議事録(案)(河野^守委員)
 - 05-08 鋼構造環境小委員会 2013 年度第 5, 6 回議事録(藤田委員)
 - 05-09 第 24 回鋼構造素材小委員会議事録(案)(山田委員代理:見波委員)
 - 05-10 2013 年度鋼構造塑性設計小委員会第 5 回議事録(案)(玉井委員)
 - 05-11 第 7 回東日本大震災鋼構造被害検討 WG 議事録(案)(緑川委員)
 - 05-12 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG 2013 年度 第 2, 3 回議事録(案)(田川委員)
 - 05-13 2014 年度大会 PD 資料(玉井委員)
 - 05-14 鋼構造座屈設計指針改定メモ(井戸田委員)
 - 05-15 質疑回答の一覧(井戸田委員)
 - 05-16 欠番
 - 05-17 2013 年度小委員会活動成果報告(多田主査)
 - 05-18 2014 年度予算原案(多田主査)
 - 05-19 日本建築学会大会プログラム編成会議(4/22)の鋼構造部門の参加依頼者(多田主査)
 - 05-20 大会研究協議会資料(多田主査)
- 5 . 議事内容**
- (1) 藤澤委員より退任のあいさつがあった。後任は JFE スチールの稲岡真也氏。
 - (2) 資料 05-02 に基づき前回議事録の確認がなされた。
 - ・ 軽構造 軽鋼構造に修正。

- (3) 資料 05-03 に基づき多田主査より第 4 回の構造本委員会について説明がなされた。
- ・ 第 3 者によるネイティブチェックの費用(上限 50 万円)の援助について、応募するかどうかを「鋼構造関連規準・指針英文化 WG」に検討依頼した。
 - ・ 「オンラインストレージ」の運用開始に伴い「AIJ デジタルライブラリー」の運用を 5 月末日で終了するので必要なファイルを「オンラインストレージ」に移行すること。
 - ・ 2014 年度大会で、鋼構造の PD は 3 日目 AM，研究協議会は初日 AM となった。
 - ・ 論文集委員会委員の改選に伴い津田恵吾委員を、技術報告集委員会委員に荒木慶一委員を推薦した。
 - ・ 「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」の査読者が植松康委員(東北大)と伊藤優氏(日本設計)になった。
 - ・ 「鋼構造制振設計指針」の構造本委員会での査読(福和委員，吹田委員)が終了した。
 - ・ 会員外委員委嘱として井上一朗委員(日総試)の鋼構造制振小委員会への委員委嘱が承認された。
 - ・ 鋼構造運営委員会の小委員会主査の変更は以下の通り。
 - 河野守委員(東京理科大) 平島岳夫委員(千葉大)
 - 山田丈富委員(千葉工大) 見波進委員(東京電機大)
 - ・ 「構造本委員会の活動の基本方針について」における「A)若年層の構造への誘い」は以下の体制で実施する。
 - 主査:竹脇出(京大)，委員:塩原等(東大)，加藤研一(小堀研)，多田元英(阪大)
- (4) 資料 05-04~05-12 に基づき各担当委員より小委員会および WG の報告がなされた。なお、委員の委嘱等で運営委員会が承認したものは、学会事務局に連絡して本委員会の承認を得ること。
- 座屈小委員会(資料 05-04，井戸田委員)
- ・ 新たに倉田委員(京大)と松井委員(東工大)を委嘱する。(運営委員会承認)
- 接合小委員会(資料 05-05，増田委員)
- ・ 柱脚 WG の会員外委員委嘱の件は会員になった。(運営委員会承認)
 - ・ WG に若手委員を登用しているので、機会を見て紹介する。
 - ・ 「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」の運営委員会の査読者は山田委員と向野委員で変更なし。
- 制振小委員会(資料 05-06，緑川委員)
- ・ 査読の経過として指針のスタンスや 6 章以降一部を付録に移行した旨を報告した。
 - ・ 本委員会査読が終了し、脱稿した。印刷終了まで 6 カ月を要する。
 - ・ 講習会は 11/21(東京:建築会館)，11/28(大阪:大阪科学技術センター)に決まった。
- 耐火設計小委員会(資料 05-07，河野^守委員)
- ・ 新たに安田氏(大成建設)と新谷氏(竹中工務店)を委嘱する。(運営委員会承認)
 - ・ 指針の改定内容の骨子について説明があった。2016 年度出版予定であり、現在原稿の新旧対応表を作成中である。2015 年度に PD を予定している。
- 環境小委員会(資料 05-08，藤田委員)
- ・ 指針のタイトルの見直しを実施した。指針は囲みがなく本文のみで構成する予定である。
 - ・ リユースに関しては、リユース先が決まっているものとして検討を行っている。

- ・ 火災後の再利用に関しては、建物の火害診断および補修・補強方法指針(案)を参考にされてはどうか。(河野^守委員)
- ・ 対象とする建物規模が決まっているとイメージしやすいと思う。(河野^昭委員)
今は特に考えていない。(藤田委員)

素材小委員会(資料 05-09, 見波委員)

- ・ 委員として藤澤委員を解囑して下川氏を委嘱する。(運営委員会承認)
- ・ データベースの公開は研究目的に限定し、対象者を絞ることとする。
- ・ 2種類の公開方法が提示された。学会の小委員会のホームページに掲示してメールで個別対応する方法も含め、何を保護する必要があるかを考慮して引き続き検討を進める。
- ・ 利用規約については学会事務局に相談し、結果を運営委員会に報告のこと。(多田主査)
- ・ サンプル数 100 以上を公開する件は、それ以下のサンプル数のものでも貴重なデータがあるので、公開するデータに関して引き続き検討する。

塑性設計小委員会(資料 05-10 玉井委員)

- ・ 特になし。

東日本大震災鋼構造被害検討 WG (資料 05-11, 緑川委員)

- ・ 進捗としては第 1 稿が出来上がった。
- ・ 報告書 DVD と同時に出版する B5 サイズの概要版を作成する予定である。

鋼構造関連規準・指針の英文化 WG(資料 05-12, 田川委員)

- ・ 本文は全部英訳するが、解説は選定して英訳する。
- ・ S 規準だけで設計できるようになっていないので、英訳版発刊にあたっての補遺として補足説明が必要である。
- ・ 大会前の運営委員会の重点審議事項とする。(多田主査)
- ・ 構造本委員会の査読者を決めてほしい。(緑川委員)
- ・ Web 出版の原稿は今年中に出来上がると思う。
来年度に出版の場合、本委員会に刊行企画書と刊行計画書を今年の秋に提出する必要がある。(多田主査)
- ・ WG への委員委嘱があり、運営委員会で承認された。

(5) 資料 05-13 に基づき来年度大会 PD の企画について玉井委員より説明がなされた。

- ・ 指針改定に当たって、過去の内容の中で残す部分を分冊とする件については次回以降の運営委員会で検討する。
- ・ (3)骨組と部材の変形能力は新規の内容であるが、取り扱いについては小委員会で整理する。

(6) 重点審議として、資料 05-14 に基づき井戸田委員より鋼構造座屈設計指針の改定骨子について説明がなされた。

- ・ 床スラブによる補剛効果を具体的な設計式レベルまで書くのは可能か。
上フランジを連続拘束された梁の性能という位置づけで書くつもりである。その連続補剛性能を満たす床スラブの設計法までは言及できないと考えている。
- ・ 設計式の提示には、そこに含まれる安全率や余裕度の検討なども必要だと思うが、それはどのようにするのか。

上記の回答とも重なるが、上フランジを連続拘束された梁の性能という位置づけで記述する。梁の必要補剛性能に対して床スラブの補剛性能をどの程度余裕を見るかという観点及安全率につながると思うが、そこまでは触れない。

まだ、方針を整理している段階なので、もう少し具体的な改定案が提示できるようになれば、もっと掘り下げた審議ができる。暫くしてから改めて審議の機会を設けていただきたい。

- (7) 資料 05-15 に基づき井戸田委員より学会図書の質疑回答の報告がなされた。
- (8) 資料 05-17 に基づき、多田主査より小委員会の 2013 年度活動成果報告について説明がなされた。
- (9) 資料 05-18 に基づき、多田主査より鋼構造運営委員会予算原案について説明がなされた。
 - ・ 詳細については小委員会主査とメールで審議して決定した。
 - ・ 減額:鋼構造運営委員会, 鋼構造制振小委員会
 - ・ 増額:鋼構造接合小委員会, 鋼構造塑性設計小委員会
 - ・ 追加配分された 11 万円は運営委員会予算内の予備費に充当。
- (10) 資料 05-19 に基づき、多田主査より大会プログラム編成会議の出席者について説明がなされた。
- (11) 資料 05-20 に基づき、多田主査より構造部門研究協議会について説明がなされ、鋼構造運営委員会の主題解説の方針案が紹介された。
 - ・ 阪神大震災以降で変化があった技術内容について以下の項目が挙げた。この他、気がついた委員は多田主査まで連絡のこと。
 - ✓ 露出柱脚のアンカーボルトの規格(増田委員より多田主査へメモを送付)
 - ✓ 冷間成形角形鋼管設計施工マニュアルの策定
 - ✓ 梁端の接合部係数

6. その他

- ・ 中島委員が解嘱, 田中委員(神戸大), 原田委員(千葉大), 岡崎委員(北大)を委嘱。(運営委員会承認)
- ・ 今後の重点審議は次の通り。
 - ✓ 第 1 回運営委員会:環境小委員会
 - ✓ 第 2 回運営委員会:耐火小委員会
 - ✓ 第 3 回運営委員会:規準・指針の英文化 WG
- ・ 今後の運営委員会の日時, 場所は以下の通り。
 - 第 1 回運営委員会 2014 年 5 月 26 日(月), 13:00-17:00